

地域の活性化に向けて
生産者と消費者をつなぐ
イベントを開催するのが私の夢です。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ

幼い頃から家の手伝いをしていましたが、農業は大変なことが多く、農家を継ぐつもりはありませんでした。大学を卒業後、二度北海道を離れて会社に勤めましたが、退職をきっかけに北海道へ戻ることになり、その時先祖代々受け継がれてきた農地を守っている父の姿を見て、自分もこの農地を守りたいという想いから就農を決意しました。

2 就農当初の想い

就農当初は、幼い頃から手伝っていた作業以外は何もできず、もともと多くの知識を身に付けて農業に取り組みたいと考えるようになりましたが、タマネギの不作、大雪によるビニールハウスの倒壊など、さまざまな問題が発生し、この先農家としてやっていけるのかと不安になることもたくさんありました。特にビニールハウスが倒壊したときは、一生懸命やってきたのにという悔しさと悲しさで涙が出てきました。

農業の知識の習得や経験を積み、実際に自分がさまざまな問題に直面したことで、多くの悩みを抱えながらも、営農していた父の苦勞を知ることができました。

3 農業をされていて嬉しかったこと

趣味で仲間とバンドを組んでおり、地方のイベントに出向くことがよくあります。その際、自分が栽培した野菜などを持っていき販売すると、消費者はとても喜んで購入してくれます。物価高や生産コストの上昇、そして天候の影響で思い通りの作物が作れなかった時は不安になることもありますが、消費者の喜んでる姿が自分の大きな励みになっています。そうした声に支えられ、これからも農業を頑張り続けていこうという強い意志を持つことができています。



4 今後の目標

地域の活性化を図るために、大人も子どもも巻き込んで音楽と農業を掛け合わせたイベントを開催することが夢です。イベント会場で農産物の販売も行い、いわみざわ産の農産物のPRをするとともに、消費者と交流する機会が増えれば、より地域の活性化につながると思います。

農家の後継者は少なくなっています。が、地域を活性化させ、農政に対して現場の声を届けることができる発信力がある地域にしていきたいです。

人物 memo

岩見沢市下志文町
齋藤 大輔 さん(38歳)

妻のさゆりさんと父の和熙さん、母の千代子さんと家族4人で約12畝の農地にタマネギと小麦を栽培。先祖代々受け継いできた農地を守りたいという想いから就農を決意しました。現在は、地域の活性化に向けて夢を抱きながら農業を営んでいます。